

**子どもの発達や学びの連続性を重視した幼小の連携**  
**- 滑らかな接続を図るための接続期カリキュラム編成・交流活動を探る -**

授業づくり支援課授業支援 班 長期研修員 岩田 智乃

## 1 主題設定の理由

近年の幼児の育ちについては、中央教育審議会の答申（2005.1）に「基本的な生活習慣が身に付いていない、他者とのかかわりが苦手である、自制心や耐性、規範意識が十分育っていないなど」が指摘されている。また、1年生になると、生活の変化に適応できない、授業が成立しないなど、学級が機能しない「小1プロブレム」という現象が問題視されている。

子どもの発達は連続しているにもかかわらず、幼児教育から小学校教育へ移行の際、教育内容や方法、環境が急激に変化し「段差」が存在する。近年の子どもには、「段差」は大きなものと感じられ、学校生活に適応しにくいという実態がある。

幼稚園教育要領（2008.3）では、「幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続のため、幼児と児童の交流の機会を設けたり、小学校の教師との意見交換や合同の研究の機会を設けたりするなど、連携を図るようにすること」が示された。また、小学校学習指導要領（2008.3）でも、幼児教育の成果を踏まえ、小学校への適応、教科などの学習への円滑な移行をすることが求められ、「幼稚園との連携や交流を図る」と明記されている。

A市では、幼小の連携は、体験入学や連絡協議会という形で行われている。しかし、年度当初、連携の対象や方法、担当教師が未定で、計画的に連携を進めていくことが難しい。

入学時に子どもの対応に苦慮している1年担任の話も聞くことから、有意義な連絡協議会となるような改善が必要であると感じる。また、子どもが感じる「段差」について幼稚園・小学校教師が理解して、具体的な連携の方策や効果的な交流実践を模索し、子どもが不安なく過ごせるようにしなければならない。

そこで、本研究では、子どもの豊かな発達や成長を促すために、子どもの発達や学びの連続性を重視した「幼小の連携」の在り方を探ることとした。

## 2 研究の目的

幼児教育と小学校教育の滑らかな接続を図る「幼小の連携」を行うために、幼稚園で身に付いた力を小学校で効果的に発揮できるような、接続期カリキュラムを試作し提案する。また、子どもの発達の段階や特性を十分考慮した互惠性のある交流活動の在り方を探る。

## 3 研究の方法

- (1) 幼小の連携について、幼稚園・小学校教師の意識を調査し、実態を把握する。
- (2) 接続期の学びについて検証し、実践協力校独自の「接続期カリキュラム」を試作する。
- (3) 幼稚園・小学校教師が、接続期の学びを相互理解できるような交流計画を立てる。
- (4) 相互のねらいを明確にした子ども同士の交流活動を実践し、その効果を考察する。

#### 4 研究の内容

##### (1) 幼小の連携に関する幼稚園・小学校教師の意識と実態

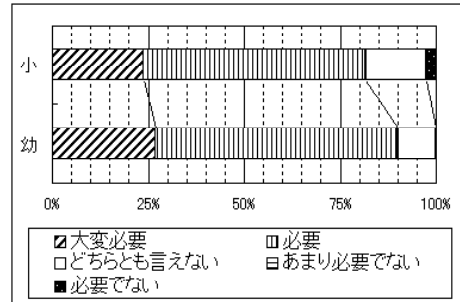
幼小の連携に関する実態や課題を明らかにするため、A市の公立幼稚園8園と本研究における実践協力校の学区内にある私立幼稚園・保育園4園の5歳児担任(30人)とA市の公立小学校13校の1年生担任(39人)を対象にアンケート調査を行った。

##### ア 教育内容の相互理解に関する調査結果

##### (ア) 幼稚園・小学校教師が互いの教育内容を知る必要性に関する意識

幼稚園・小学校教師が、「互いの教育内容を知る必要性を感じているか」という質問をした。幼稚園教師は「大変必要、必要」が90%、小学校教師は81%と小学校教師の方が多少意識は低い、互いの教育内容を知る必要性を感じている(資料1)。

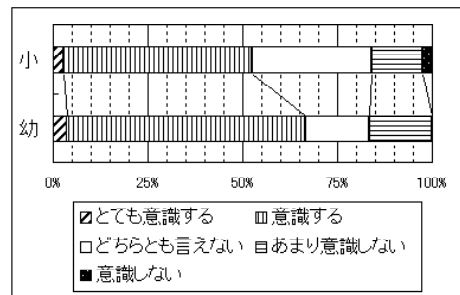
【資料1】教育内容を知る必要性



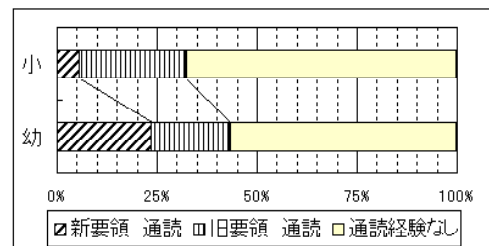
##### (イ) 教育内容の違いから生じる段差の意識

互いの教育内容を理解し、日ごろの指導に生かすことを意識しているかを調査するために、幼稚園教師には「入学前の子どもに対して小学校での教科学習を意識して教育を行っているか」、小学校教師には「小学校に入学した子どもに対して幼児教育で養った力を意識して教育を行っているか」という質問をした。「どちらとも言えない、あまり意識しない、意識しない」が幼稚園教師で33%、小学校教師は46%だった。幼児教育と小学校教育の接続や学びを連続させるという意識をあまり持たない教師が、幼稚園で3分の1、小学校では、半数近くいる(資料2)。

【資料2】教育内容を生かした指導



【資料3】学習指導(教育)要領通読



次に「幼稚園教師は小学校学習指導要領を、小学校教師は幼稚園教育要領を通読しているか」という質問をした(資料3)。新学習指導要領・新教育要領の通読は、幼稚園教師の23%、小学校教師の5%という結果だった。改訂前の要領を含めても、幼稚園教師は42%、小学校教師は32%で、互いの教育内容について学んだり、相違点や接続の部分を探ろうとしたりする意識は低い。

##### イ 教育内容の共通理解に関する考察

アの結果から、互いの教育内容を理解することは大切だと感じているが、段差を埋める両者の歩み寄りには停滞していることが明らかになった。

小学校教師より幼稚園教師の方が、滑らかな接続をするために教育内容の相互理解を深めようという意識が高い。小学校教師は、幼稚園から継続しているという意識が低く、入学した時点「ゼロスタート」として、指導をする考えもある。

しかし、幼稚園の教育が、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして位置付けられたことを重要視したい。子どもに大きな「段差」を感じさせないために、教育内容や方法の相互理解を深める教職員同士の交流が、連携の第一歩であると感じた。

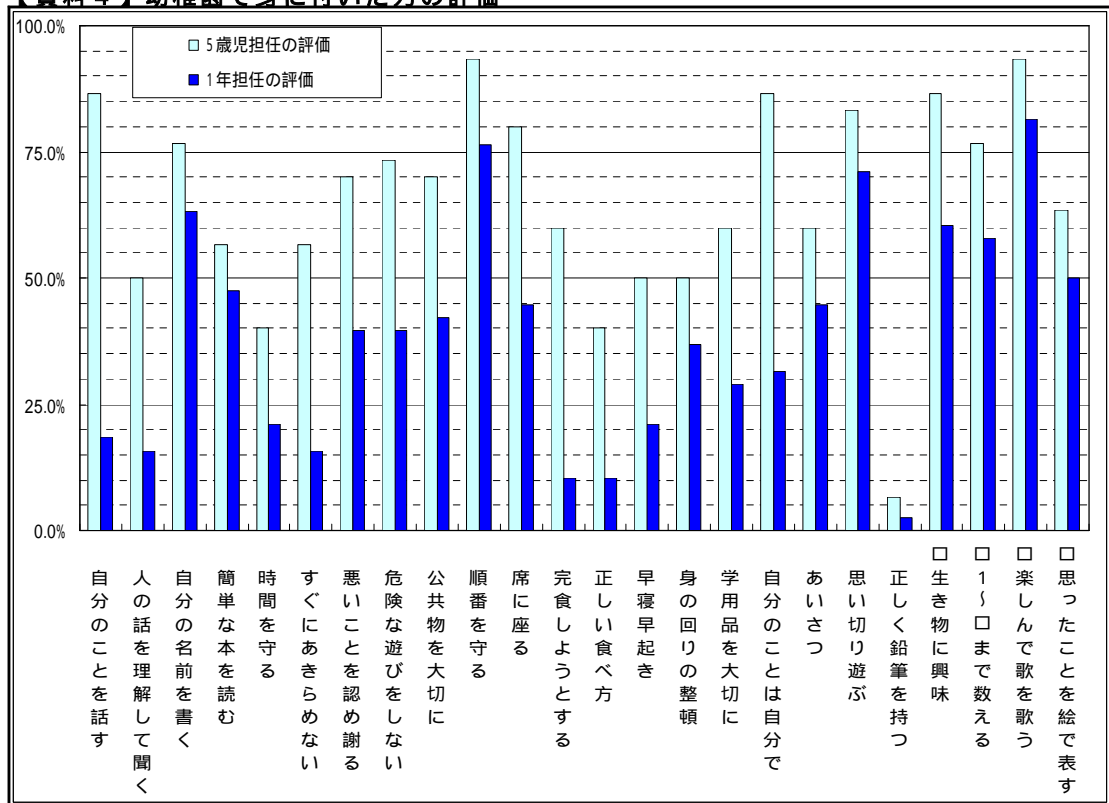
## (2) 幼稚園で培った力を生かした学びの接続

### ア 身に付いたと感じる力、身に付けてほしい力の調査

「幼稚園教育要領 5領域の内容の取扱い」を受け、「在園中に身に付けたい力」に「入学時すぐに必要となる力」を加え、具体的な子どもの姿として24項目を挙げた。これらの項目について、幼稚園・小学校教師が「幼稚園在園中に身に付いた力」と「それぞれに対し指導してほしい力」について評価をすることとした。

### (ア) 「幼稚園で身に付いた力の評価」についての幼稚園と小学校の比較

【資料4】幼稚園で身に付いた力の評価



資料4のように、全般的に小学校教師より幼稚園教師の方が評価が高く、幼稚園では「付けるべき力を付けて卒園させている」という思いが強い。それに対し、小学校教師は、入学時の子どもの表れから評価するため、厳しい評価となっている。

「聞く・話す・文字」( ~ )の項目では、「話す、聞く」とも小学校教師の評価は大変低い。中でも、「自分のことを話す」については幼稚園教師は87%だが、小学校教師は18%と大きな差がある。幼稚園では力を付けたと評価している項目の多い「集団の中で生活する力」( ~ )も、守ってほしい約束や友だち

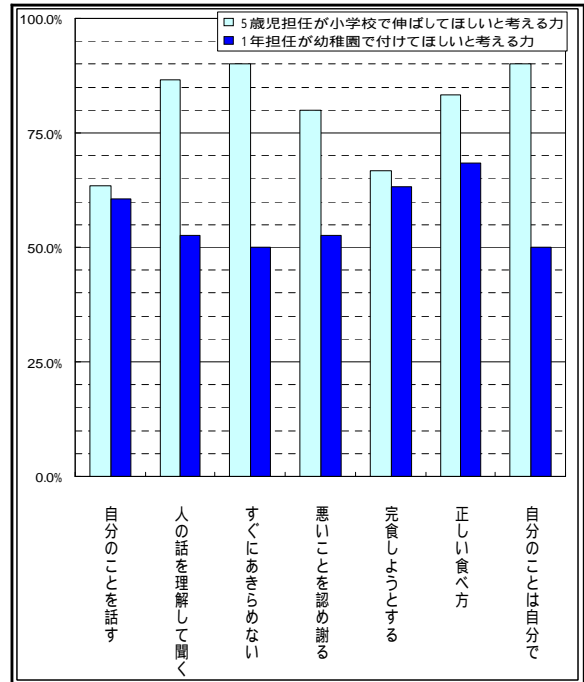
とのかわり方について、小学校では幼稚園ほど評価されていない。「学習や生活習慣の定着」( ～ ) に関しては、幼稚園の評価も低く、幼稚園在園中だけでは身に付けることができていないことがうかがえる。小学校の評価はさらに厳しく、どれも50%以下という結果だった。教科学習のために必要な力( ～ □ ) については、幼稚園教師と小学校教師の評価は近く、どちらも高い評価となった。

(イ) 「それぞれに対し付けてほしい力」に関する認識

資料3の24項目のうち、「幼稚園教師が小学校で付けてほしい力」と、「小学校教師が幼稚園で付けてほしい力」が共に50%を超えている7項目を抽出した(資料5)。

この7項目については、小学校教師は幼稚園で、幼稚園教師は小学校で付けてほしいと考えている。「話す、聞く」はどちらも高い数値を示し、相手に対して今以上の指導を期待している。「自分のことは自分で」は、幼稚園教師の評価は「幼稚園で身に付いた力」が87%(資料3)と高いことから、幼稚園でも指導しているが、小学校でも継続して指導を続けたい大切な力だと感じていることが推測される。

【資料5】それぞれに対し付けてほしい力



イ 身に付いたと感じる力、身に付けてほしい力に関する考察

先に挙げた「聞く・話す・文字」「集団の中で生活する力」「学習や生活習慣の定着」の3領域とも、互いに指導を求めている項目がある。この項目に関しては、接続を意識して、「身に付ける力」を明確にする必要がある。また、幼稚園は小学校で育てる力、小学校では幼稚園で育てる力と考える項目も多く、「両教師の意識のずれ」があることが明らかになった。「両教師の意識のずれ」の原因として、幼稚園教師と小学校教師の子どもへのかかわり方が違うこと、環境の変化により子どもが持っている力を十分発揮できないこと、幼稚園教師と小学校教師は評価の基準や子どもの見方が違うことの3点が考えられる。

幼稚園で身に付けた力を小学校で生かすために、発達段階に応じ、子どもに付けたい力を系統立てて示したものが必要となる。そこで、幼稚園教師と小学校教師が子どもの成長を長いスパンでとらえ、幼稚園で培われた力や芽生えた力を、小学校で更に伸ばしていくことを意識して接続期カリキュラムを作成することが有効と考えた。

(3) 交流の実態の把握

交流の実態を把握するため、A市内の公立小学校13校にアンケート調査を行った。

## ア 交流についての調査結果

### (ア) 連携や交流の実施計画

学校経営書に「幼小の連携」に関する記述がされているか調査した(資料6)。教育方針やグランドデザインの中に「幼小の連携を図る」という記述がある学校は5校だった。具体的に教育計画や分掌内容に、子ども同士の交流活動が示されていたのは、4校、教師の交流は5校だった。

### (イ) 子ども同士の交流活動の実践内容

20年度の実践は、体験入学、学校紹介、発表会など、5歳児が「見る、聞くだけの活動」が84%を占めている。それに対し、5歳児と小学生が1対1で交流活動をしている学校は16%と少なかった(資料7)。

### (ウ) 子ども同士の交流活動の必要性

子ども同士の交流活動の必要性を問う質問に対しては、ほとんどの幼稚園・小学校教師が「子どもにとって必要である」と回答している。「教師にとって必要か」という問いに対しては、子どもほどではないが、必要性は感じている(資料8)。

### (エ) 子ども同士の交流活動に対する期待と課題

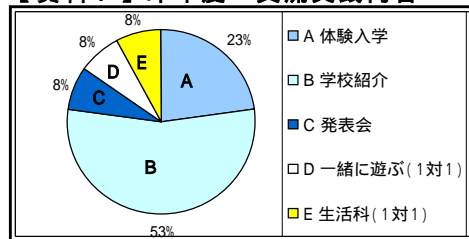
幼稚園・小学校教師ともに子ども同士の交流活動では「入学予定者が小学校を楽しむに、不安を取り除く」ことを期待している。円滑な接続を図るために必要な「それぞれの発達の段階や特性を理解する」ことは、幼稚園教師の60%が期待しているが、小学校教師は18%と低い(資料9)。

次に、子ども同士の交流活動を進めるにあたり、現状の課題を調査した。小学校として課題と感じていることは、「交流対象が複数園」「入学予定者がいる幼稚園・保育園が不明瞭」ということが挙げられている。一方、幼稚園が挙げた課題は、「イベント的になる」「子ども同士のかかわりが深まらない」という回答が多く、子ども同士が交流を深めることができるような交流活動を望んでいることが明確になった。

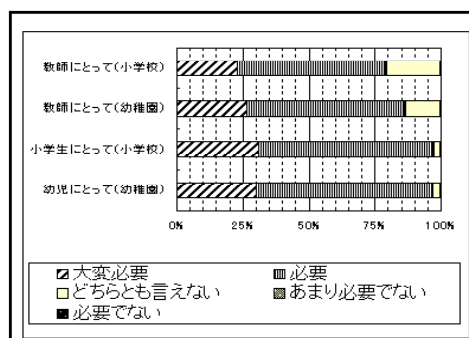
【資料6】学校経営書の「幼小の連携」に関する記述

学校経営書	学校数
教育方針	3
グランドデザイン	2
教育計画(教師)	4
教育計画(子ども)	2
道徳(子ども)	1
総合的な学習(子ども)	1
特別支援(教師)	1
なし	2

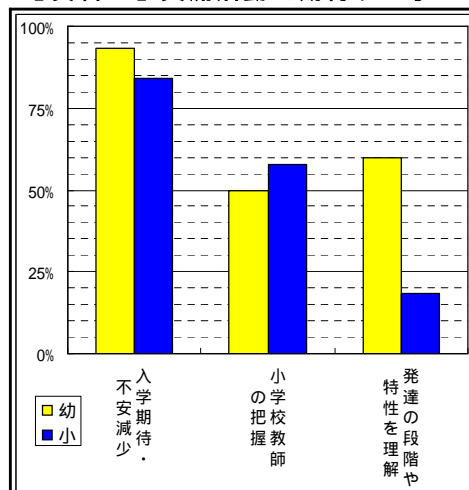
【資料7】昨年度 交流実践内容



【資料8】教師からみた交流活動の必要性



【資料9】交流活動で期待する事



## イ 交流についての考察

A市では、「幼小の連携を図る」ことが学校経営書に示されている学校が多い。毎年幼小の連携は実践されているが、活動までの連絡調整や内容については課題を残している。そこで、教育計画や学年の行事予定に組み入れたり、年間を見通して様々な形で子ども同士の交流活動や教師の交流を進めたりすることが大切である。

子ども同士の交流活動は、教師にとって、子どもの発達の段階や学びの連続性を把握する機会ととらえ、計画する意識は低い。交流活動を実践するにあたり、幼児、児童それぞれのねらいを示し、教師のねらいも明確にした実践を行う必要を感じる。

### (4) 接続期のカリキュラム試作

幼小の連携の具体策の1つとして、接続期カリキュラムを試作することとした。

接続期の設定は、5歳児10月から小学校1年生7月末までとし、教育内容や環境の特徴から3つに細分化した。「接続期前期」は、年長10月から卒園までとした。この時期は、協同的な活動を中心として、人・もの・こととのかかわりを深め、経験を繰り返して学びを充実させていく。また、就学時健康診断や交流活動を実施することで、小学校を意識するようになる。「接続期中期」は、1年生になり、たくさんのきまりや習慣を学ぶ1か月とした。「接続期後期」は、生活の約束やきまりより自分の思いを優先させてしまう面が出てきたり、不安を表出する子どもも出てきたりする、5月連休明けから夏休みまでとした。

### ア 接続期で重視したい力と教師の手だて

#### (ア) 重視したい力

まず、接続期カリキュラムを作成するために、接続期で重視したい力と教師の留意点についてまとめた(資料10)。

【資料10】接続期に重視したい力と教師の手だて

	前期(幼稚園5歳児10月～3月)	中期(小学校1年生入学～GW明け)	後期(小学校1年生GW明け～夏休み)
ねらい	安定した生活の中で、自己発揮しながら友だちと共通目的に向かって取り組む。	1年生になった喜びや期待を胸に、新しい友だちや環境と進んでかかわる。	新しい環境の中で安定して、友だちと共に生活や学習に積極的に取り組む。
重視したい力	協同的な活動	生活科を核とした 合科的な活動	教科中心の学習
	開 文 字 話 す	体験を通してことばで伝え合うことの楽しさを知る。 ・全体での話を聞く・教師や友だちの話を最後まで聞く ・進んでお話を進める・相手にわかるように話す ・文字に慣れる・自分の名前を書く・言葉のリズムを楽しむ・言葉遊びを楽しむ ・物語の読み聞かせ(理解し、想像力を働かせる)・好きな絵本を選んで読む	文字を知り、伝え合うことの楽しさを知る。 ・話を最後まで理解して聞く・困った事や気持ちを書く ・ひらがなを読む・書く・当番で司会をする ・自分で絵本や短い物語を選び読む
	集 団 で の 生 活 を し る	体験や活動を通して共に生活するよさをを感じる。 ・自分なりの目的を持ち、実現に向けて工夫する ・相手の気持ちを考えたり判断する(共感・折り合い) ・友だちとのかかわりの中で、自分たちで課題やつまづきを解決しようとする	新しい友だち、新しい環境とかわる事を楽しさを感じる。 ・活動を積極的に取り組む・教師との信頼関係を結ぶ・担任以外の先生を知る ・友だちに関心を持つ・新しい友だちと仲良くなる・願望する上級生と交流する ・学校の施設に興味を持つ・遊具の使い方や約束を知り、楽しく利用する
学 習 慣 習 や 生 活 の し よ う	できることば進んで行い、みんなの役に立つ。 ・生活習慣を整える(朝寝起き・朝ご飯) ・時に適応して、がんばる(一斉指導・卒園式練習) ・食に関して関心を持ち、食の大切さを知る(時間内の食事) ・当番・清掃活動・年長として、年下の子ども世話	新しい生活習慣や環境を意識した生活をする。 ・家での過ごし方(友達・学校の話をする)・朝顔を意識して生活する ・学校の目線に慣れる(朝・朝の支度、番替え・身の回りの整理) ・給食に慣れ、友だちと楽しく食べる ・基本的な約束(座に書く・合図をしたら黙る・給食の準備・片付け)	はじめのある生活をする。 ・学習・生活の準備をする ・正しいマナーで生活する (給食・清掃・挨拶) ・活動は時間内に丁寧にやる
子どもの思い	小学校への関心・期待・新しい生活への不安	1年生になった喜び・新しい生活への緊張・期待	成長した実感を持つ・環境に慣れ、安心する
教師の手だて(留意点と環境構成)	時間の保障と空間の保障		時間や空間に見直しを持つ・学習形態の工夫
	<ul style="list-style-type: none"> <li>具体的な体験を通して学ぶ。</li> <li>複数で折えるような支援を心掛け、教室掲示も、個々への配慮をする。</li> <li>子どもたちの発達に応じた声掛けをし、1対1のかかわりの中で認め自信をつけさせる。</li> <li>新しい活動を意図的に組み入れ、順序立てた丁寧な指導(視覚・体験)をする。</li> <li>一人一人の発想や遊び心みんなの活動へつなぐ。</li> <li>自分の考えを友だちの考えも聞き、互いに受け入れ合って活動を進めるように援助する。</li> <li>友だちとのトラブルや、つまづきの場面で自分たちで解決できるような援助をし、自信につなげる。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>1対1のかかわりと1対多のかかわりを意図的に設定する。</li> <li>学習活動に力を入れ、ねらいを持ち、教師主導にならないような継続的な構成を心掛ける。</li> <li>クラス全体で成長したことを認める。全体の場で個を認める。</li> <li>新しい活動に関して、指示の出し方を子どもたちの実態に合わせて工夫し、明確な指示をする。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の幼稚園で培った力を把握し、認め自信を持たせる。</li> <li>新しい友だちとのかかわりを支え、自分たちでコミュニケーションが円滑にとれるよう支援する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>意図的な学習集団を設定</li> <li>活動の見直しを持たせる工夫</li> <li>活動場所の枠組み</li> <li>時間設定を提示する(目安)</li> <li>努力が認められたことが子どもにも伝わる作品掲示</li> <li>学習・生活のヒート</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちの思いに沿った活動の広がりや深まりに対応できる場の設定</li> <li>材料・用具の準備</li> <li>自分でできたという実感を促せる掲示</li> <li>自主的に多くの友だちと接することができる形態の工夫</li> <li>子どもが学べる教室経営(目線に合う・興味が続く・理解できる)</li> </ul>			

「幼稚園で身に付いた力の評価」のアンケート調査から、幼稚園教師と小学校教師の「身に付いた力」の認識に大きな差があることが分かった。そこで重視したい力を、「聞く・話す・文字」、「集団で生活する力」、「学習や生活習慣の定着」の3点とし、資料10において、それぞれの時期で願う子どもの姿を明示した。

また、縦矢印に示した重視した力を付ける場として、接続期前期では「協同的な活動」、接続期中期では「生活科を核とした合科的な活動」、接続期後期に少しずつ「教科中心の学習」を中心として力を付けていくこととした。

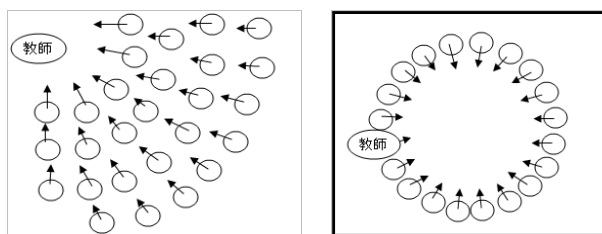
#### (イ) 教師の手だて（留意点と環境構成）

接続期前期は、具体的な体験を通して学んでいる。中・後期も継続して、具体的な活動を多く取り入れ体験を通して学ばせる必要がある。体験を繰り返すことで自信をつけ、自主的に活動に取り組み、自分らしさを発揮できることをねらっている。

また、接続期前期では、子どもの活動の実態を見ながら、緩やかに時間の設定をしている。小学校では、日課が細かく設定され、時間に合わせて子どもが動くが、接続期中期では、小学校教師が子どもを見取り、子どもの集中力に合わせた弾力的な時間配分をする。

幼稚園では、子どもが空間を共有し、自由に活動をしているが、入学すると自分の机を中心に学習が進められる。そこで、活動によって資料11のような形

【資料11】幼稚園での日常の空間利用



態を取り入れ、幼稚園で慣れた形態や教室環境を継続する。それにより、友だちや教師と距離が近くなり安心感も生まれることが期待できる。

#### イ 滑らかな接続を意識した接続期カリキュラム

資料10で示した「重視したい力」を踏まえて、滑らかな接続を意識した「接続期カリキュラム」を試作した（資料12）。

接続期前期は、発表会や作品展などを通じて、集団として1つの目的に向かって協同的な活動が進められる。友だちの思いを理解し折り合いをつけ、自己調整力を養う体験も増えてくる。教師は、小学校への見通しを持ち、意欲的に活動させるような配慮が必要である。接続期中期においては、生活科の活動を柱にして、教科の枠にこだわらないで、学びの元になる活動を中心とする。生活科の単元を中心に、子どもの実態を見ながら、興味や関心を継続させる時間設定をする。また、体験活動を中心にして、「学校って楽しい」という思いが芽生えるような授業構成を工夫する。

接続期後期では、生活習慣や環境の変化に適応し、自分の思いを発揮できるようになってくる。小学校の生活に安心感がもてるようになったところで、少しずつ教科学習の時間を増やしていく。教科学習の時間であっても、体験やゲーム感覚で興味を持って学習できるような授業構成をすることが大切である。

また、子どもは、生活全般で力を身に付けていくので、保護者の理解と協力は欠か

せない。入学に対して、保護者も期待や不安を持っているので、保護者との連携を図るために留意することを示し、保護者との信頼関係を築くようにする。

【資料12】 滑らかな接続を意識した接続期カリキュラム

	前期(幼稚園5歳児10月~3月)	中期(小学校1年生入学~GW前)	後期(小学校1年生GW明け~夏休み)	
保育・学習の内容	<p>秋を楽しもう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>秋を集めよう</li> <li>小学生と秋遊びしよう(交流)</li> <li>自分たちのお祭りをしよう</li> <li>秋に美味しい食べ物</li> <li>運動会</li> </ul>	<p>入学式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校たんけん</li> <li>安全に通ぐす</li> <li>校歌</li> <li>ゆくてで遊ぼう</li> <li>トイレの使い方</li> <li>安全教室</li> </ul>	<p>新しい生活</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい先生・友だち</li> <li>みんなと楽しもう</li> <li>1年会場(運動会)</li> <li>ななひな</li> <li>1年生を迎える会</li> <li>げんきなあいさつ(礼儀)</li> </ul>	<p>アサガオの観察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アサガオの観察</li> <li>アサガオを描こう</li> <li>アサガオの観察</li> <li>アサガオの観察</li> </ul>
園・学校での生活	<p>小学校への関心を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小学校との交流活動を行う</li> <li>小学校に関する絵本(物語)の読み聞かせ</li> </ul>	<p>小学校への不安を取り除く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師との1対1で話し機会を設け、よいところを見付け認める</li> <li>歌や読み聞かせなど取り入れ、幼稚園と近い雰囲気活動を取り入れる</li> <li>ゲームやアイスなどを取り入れ、友だちとかわる機会を設ける</li> </ul>	<p>小学校生活に慣れるための</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>体験を通して、新しい習慣を習得させる(繰り返し指導)</li> <li>45分程度を、子どもに合わせて時間や内容の設定をする</li> </ul>	<p>小学校生活に慣れるための</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>連体中の過ごし方を把握し、不安の強い子どもへの配慮をする</li> <li>幼稚園の経験した事を取り入れ、成功体験を増やす</li> <li>子どもの実態に応じ、当番活動や清掃活動を行わせる</li> </ul>
保護者との連携	<p>生活習慣の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生活リズムの固定(早起き起床)</li> <li>持ち物の確認・片付け・あいさつ</li> </ul>	<p>小学校生活の自己責任を促す</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>持ち物用意(鉛筆を削る、給食セット、名札など)</li> <li>学校の話をさせる(質問、共感)</li> <li>家庭学習の習慣(時間・場所)</li> <li>下校後の過ごし方(外出のきまり)</li> <li>学年便りから話題を見付け、楽しみを見出す(不安を取り除く)</li> </ul>	<p>やる気を持続させる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭訪問や連絡帳(がんばりカード)などで、情報を得る</li> <li>持ち物の準備を一緒に行う</li> <li>毎日の持ち物は自分で用意</li> <li>食事は楽しく(学校の話を中心に)</li> <li>マナーにも注意させる</li> <li>GW明けは生活リズムを再度確認する</li> <li>家庭学習の習慣を定着させる(自分から)</li> <li>連休明け・季節の変化・水泳指導などから体調管理をしっかりする</li> </ul>	<p>やる気を持続させる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>家庭訪問や連絡帳(がんばりカード)などで、情報を得る</li> <li>持ち物の準備を一緒に行う</li> <li>毎日の持ち物は自分で用意</li> <li>食事は楽しく(学校の話を中心に)</li> <li>マナーにも注意させる</li> <li>GW明けは生活リズムを再度確認する</li> <li>家庭学習の習慣を定着させる(自分から)</li> <li>連休明け・季節の変化・水泳指導などから体調管理をしっかりする</li> </ul>

ウ 接続期で重視したい力を意識した活動例

次に、資料10で示した「重視したい力」を踏まえ、資料12の「接続期カリキュラム」を進めていく際、「重視したい力」を押さえた支援の具体例を作成した(資料13)。

【資料13】 接続期に重視したい力を意識した活動例

	前期(幼稚園5歳児10月~11月)	中期(小学校入学~5日間)	中期(入学1週間後~4月末)
主な活動	<p>小学校ってどんなところ? (活動例1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1年生と遊んだね</li> <li>小学生と学校たんけんしよう(交流)</li> <li>学校ごっこをしよう</li> <li>小学生になるのが楽しみ!</li> </ul>	<p>ひかひかの一年生! (活動例2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新しい学校設備</li> <li>新しい生活(自分のことは自分で)</li> <li>新しい先生・友だち</li> </ul>	<p>学校たんけん (活動例3)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みんなと楽しもう(国語)</li> <li>10までの数(算数)</li> <li>見つけたもの(図工)</li> <li>校歌(音楽)</li> <li>遊具で遊ぼう(体育)</li> <li>ルールやきまり(特活)</li> </ul>
聞く・話す・文字	<p>前回の交流活動や活動の様子や、次に行いたいことを話そう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設の広さや数の違いに気づく</li> <li>お礼の気持ち伝える</li> <li>楽しかった事を絵や字で表す</li> <li>自分の思いを自分の言葉で話そう</li> </ul>	<p>自分の身の回りの片付け(置き場)が分かる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>元気よくあいさつと返事をする</li> <li>友だちと声を掛け合い、いっしょに遊ぶ</li> <li>友だちと声を掛け合い、いっしょに遊ぶ</li> <li>今までの経験をともに話そう</li> </ul>	<p>いろいろな先生に自己紹介をする</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>友だちと声やペアや先生に名前を言う</li> <li>何事目的△△をきかなくていい</li> <li>みつけた〇〇について言葉で友だちに分かるように伝える</li> <li>もつとくわしく読んで伝える</li> <li>1つつかいもの(人)をつつあるもの(人)…読こうとまとめる</li> <li>場所・大きさ・様子・名前・用具</li> <li>教室の本を連れて読む</li> <li>みつけたことを自分の言葉で話す</li> <li>友だちの話を最後まで聞く</li> </ul>
集団で生活する力	<p>活動中でのきまりを理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動中でのきまりを理解し守ろうとする</li> <li>自分勝手に行動しない</li> <li>だれとでも楽しく活動する</li> <li>経験を思い出し、次の交流を楽しみにする</li> <li>小学生の説明や注意を聞き守ろうとする</li> <li>共同制作では意見の違いが出たとき折り合いを付ける</li> <li>友だちと協力して、みんなで決めたルールを守って遊ぶ</li> </ul>	<p>活動中でのきまりを理解する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動中でのきまりを理解し守ろうとする</li> <li>みんなで作るものという意識を持つ</li> <li>廊下や階段では注意することが分かる</li> <li>肩の肩・出席席・席の席・下校の並び順などを覚える、まわりの友だちを知る</li> <li>様々な場面で順番を守って生活をする</li> </ul>	<p>集団で活動するためのきまりを知り、勝手な行動を止める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>みんなで活動するためのきまりを知り、勝手な行動を止める</li> <li>進んで友だちとかわかって友だちのよいところを見つめる</li> <li>たんけん中、他の学年に迷惑をかけるがない</li> <li>小グループの活動(友だちと相談あう)</li> <li>友だちと声を掛けたり手伝ったりできる</li> <li>休み時間(春休)の約束があることが分かる</li> <li>友だちの考えに共感したり、折り合いを付けることができる</li> </ul>
学習や生活習慣の定着	<p>活動の始まりや終わりの時刻を意識する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>説明や話をしている時は自分のやりかたをきかずに</li> <li>好きな事だけやるのではなく、苦手な事や勉強な事も話してみる</li> <li>使った道具の準備や片付けを進んで行う</li> <li>道具(はさみ、のり、筆など)の正しい使い方や片付けができる</li> <li>活動の流れを知り、見直しを持って自分のしたいことをする</li> </ul>	<p>トイレの使い方やランドセルの置き方、お道具箱の入れ方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ランドセルの置き方やお道具箱の入れ方</li> <li>よい姿勢・態度のイメージを持つ</li> <li>時計をみて生活をすることが分かる</li> <li>自分の席の認識(座席表)を覚える</li> <li>時計をみて生活をすることが分かる</li> <li>自分の席の認識(座席表)を覚える</li> <li>時計をみて生活をすることが分かる</li> <li>自分の席の認識(座席表)を覚える</li> </ul>	<p>活動の始まりや終わりの時刻を意識する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>活動の始まりや終わりの時刻を意識する</li> <li>活動の始まりや終わりの時刻を意識する</li> <li>活動の始まりや終わりの時刻を意識する</li> <li>活動の始まりや終わりの時刻を意識する</li> <li>活動の始まりや終わりの時刻を意識する</li> <li>活動の始まりや終わりの時刻を意識する</li> <li>活動の始まりや終わりの時刻を意識する</li> <li>活動の始まりや終わりの時刻を意識する</li> </ul>



協同的、合科的な活動の中で、「聞く・話す・文字」「集団で生活する力」「学習や生活習慣の定着」の力を身に付ける具体的な場面を挙げた。「身に付けたい力」が具体的な子どもの表れから意識付けられ、適切な支援につながることをねらっている。

接続期前期の協同的な活動で見られる子どもの表れを、例示のように、小学校へつながる力として教師が価値付ける。接続期中期では、体験を重視しつつ小学校生活に適應すること、基本的な生活習慣を育成することに重点をおいた。特に入学後1週間は子どもにとって、ほとんどが新しい経験となるため、具体的に活動計画を示した。接続期中期後半は、体験を通して子どもが安心して学び、生活科を中心に合科的に学ぶような単元構想を試作した。

(5) 接続期における交流

ア 継続的なかわりを目指した計画

交流の目的を明確にし、接続期交流計画を立てた(資料14)。

幼小連絡学習会を行い、教育内容の相互理解をすることから始める。

子ども同士の交流については、接し方が分からないという子どもの実態から、段階的にかかわるようにする。次回へ期待や見通しを持つように、交流活動を複数回計画する。

1月に行われる連絡協議会は、具体的な協議ができるように、交流等で子どもの表れを見た後に実施する。

子どもの学びや発達の連続性を重視した継続的な支援をすることにつながると考え、接続期中期・後期においても、子どもの交流(1、2年生)、教師の交流(前5歳児担任、現1年生担任)を行う。複数の視点から子どもの表れを協議し、具体的な対応や支援を検討する。

イ 教師間の連絡学習会の実践

交流のスタートとして小学校が主催して「連絡学習会」を行った。来年度入学予定者がいる幼稚園・保育所に参加を呼びかけた。家庭児童相談室職員、保健センター保健師は生育歴や家庭環境など多くの情報を持っているため、参加を依頼した。

学習会では、接続期の設定理由を示し、接続期での資料9「ねらい・重視したい力」と、資料12「園での生活」と「保護者との連携」について共通理解を図った。

また、入学前に行う連絡協議会の情報を小学校で活用している事例を示し、幼稚園・小学校の情報の共有化を図ることの大切さを伝えた。保健センターや家庭児童相談所とも連携をし、早期対応、継続した支援を心掛けていくことが共通理解された。

【資料14】 接続期における交流計画

連携	参加者	会場	ねらい	
幼小連絡学習会	入学予定者のいる園 保健師・家庭児童相談員 小学校職員	小学校 会議室	教育内容の相互理解を図る。 子どもの発達の連続性を意識する。 幼小連携のための意見交換をする。	
保育参観	近隣の保育園 5歳児 現1年生担任・特別 支援コーディネーター	保育園 保育室	来年度入学予定の子どもを参観する。 子どもの様子を把握し、援助の方法を学ぶ。	
子ども同士の 交流活動(1)	1年生 近隣の幼稚園・保 育園 5歳児とその保護者 (1年生作招待状配付)	小学校 体育館	①接し方、活動の仕方を工夫する。 ②親と同行することで、安心して小学校での 活動に参加をし、楽しむ。	
講話(保育 園保護者会)	近隣の保育園 1年生学年主任	保育園 保育室	家庭で、入学までに身に付けたいこと、小学 校での生活について紹介する。	
子ども同士の 交流活動(2)	近隣の保育園・幼稚園 5歳児と1年生	保育園 園庭・保育室	①反省をもとに、相手の思いに沿った接し方 を工夫して、遊びを進める。 ②1年生と一緒に過ごす喜びを感じる。	
入学説明会	入学予定者の保護者 校 長 1年生主任 養護教諭	小学校 体育館	小学校生活の紹介をして、生活習慣を整え ることや準備することなど、家庭への意識付 けをする。	
子ども同士の 交流活動(3)	入学予定者とその保育者 または保護者	小学校 体育館・教室	①小学校の施設や授業を参観し、学校の雰 囲気に慣れる。	
連絡協議会	近隣の保育園・幼稚園 5歳児担任 1年生担任	各幼稚園 保育園	来年度学級編成のために、入学予定の子ど もや保護者について情報を得る。	
子ども同士の 交流活動(4)	近隣の幼稚園 5歳児と3年生	幼稚園 園庭・保育室	①異学年の小学生と接し、優しくしてもらうこ とで、入学することが楽しくなる。	
接続 期中 期	1,2年生 交流活動	1,2年生 1,2年担任	小学校	①学校探検を行い、学校の施設や人につい て興味をもち、学校を楽しみにする。 ②2年生になった自覚をもち、1年生が楽し くできるように学校案内をする。
接続 期後 期	小学校参観	入学した子どもの在籍した 幼稚園・保育園保育者	小学校 1年教室	園の職員が、入学した子どもたちの様子を知 る。
	連絡協議会	入学した子どもの在籍した 幼稚園・保育園保育者 小学校職員	小学校 会議室	入学した子どもたちの様子を知る。前担任・ 現担任同士で子どもの表れを話し合う。

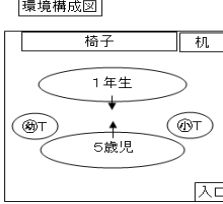
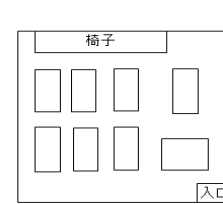
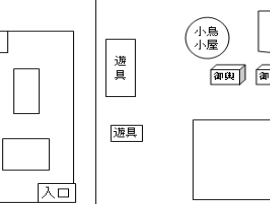
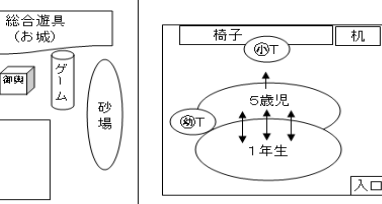
# ウ ねらいを明確にした子ども同士の交流活動

幼稚園・小学校教師が、5歳児と1年生のねらいを相互理解をするとともに、子ども同士のかかわりや子どもの表れを見取することを重視して交流活動を行った。

## (ア) 幼稚園・小学校教師による指導案の作成

第2回目の交流活動では、幼稚園・小学校教師が事前に協議を行う機会を持ち「交流活動指導案」を作成した(資料15)。

### 【資料15】子ども同士の交流活動(2) 実践例

<p>5歳児ねらい          &lt;交流のねらい&gt;1年生とかかわり一緒に過ごすことの喜びを感じ、4月に入学することが楽しみになる。          &lt;環&gt;1年生が用意した秋の自然物や園の道具などで、工夫して遊ぶことを楽しむ。          &lt;人&gt;好きな活動を楽しみながら一緒に遊ぶことで、1年生に親しみを持つ。          &lt;言&gt;自分の思いを言葉で1年生に伝えようとする。</p>	<p>いっしょにあそぼう!          &lt;交流活動教師のねらい&gt;          幼児教育と小学校教育の理解援助・指導についての相互理解          5歳児・1年生の発達特性の理解          5歳児・1年生の学びの場から接続教師同士のコミュニケーション</p>	<p>1年生 目標          &lt;交流のねらい&gt;2年生になるという自覚をもち、相手の思いを聞きながら、遊びを進める楽しさ味わう。          &lt;興関&gt;幼児に対して進んでかかわり一緒に遊ぶことで、幼児に親しみを持つ。          &lt;気づき&gt;保育園での活動を通して、自分が大きくなった事、できるようになった事が増えたことが分かる。          &lt;思考&gt;幼児とかかわりながら、ルールや遊び方を工夫して、一緒に遊びを楽しむことができる。</p>		
<p>前時まで 9:00 9:10~ 9:20~ 10:50~ 事後</p>				
<p>幼稚園・小学校お互い仲良く楽しく遊ぼう</p> <p>①小グループを決めておく。          ②1年生とやる手遊び歌を練習。          ③生活活で作ったゲームの遊び方をマスターする。          ④グループ名札づくりをする。</p> <p>⑤小学校、保育園それぞれが興味を持つよう事前に働き掛ける。          ⑥教室内の活動場所と園庭や砂場での活動場所を確認する。          ⑦1年生に保育園の絵地図を用意しておく。</p>	<p>始めの会 ベアさんと仲良くなる</p> <p>手遊び歌と一緒にやろう 幼児が1年生をリードして楽しく歌おう</p> <p>⑧自己紹介をする。          ⑨ベアの顔を覚える。          ⑩ベアの名前を覚える。          ベアごとにならんで、始めのあいさつをする。          ⑪交流活動の目標を話す。          ⑫同じマークの名札を用意して、ベアに貼る。</p> <p>&lt;幼T&gt;主導で歌を進める。園での注意事項を伝える。          &lt;小T&gt;会の進行を支援する。          ⑬うまく思いを伝えられない子には個人的に援助をする。          遊びがうまく進まないベアの遊びに入り、楽しむ気持ちが膨らむようにする。          ⑭円になったみんなの顔が見えるような形態をとる。</p>	<p>ベアさんやグループの友だちと園庭で遊んで仲良くなる</p> <p>ベアさんやグループの友だちと、秋の自然物でつくったゲームで遊んで、仲良くなる</p> <p>⑮幼児に興味をもってもらうように作ったゲームや飾りを見せ、紹介する。          ⑯やりたいことを自分で1年生に話す。保育園の中を案内しながらやりたい物を見つける。          ⑰⑱コモンズを取り、相手の思いをくみながら、活動を決定する。</p> <p>⑲活動の見直し、時間の見直しを持たせるような日程の説明をする。          ⑳会話話しながら子ども(幼小)のつぶやきや表れを把握する。          ㉑活動が滞る子に対して、1年生へ援助の仕方を伝える。          ㉒1年生と一緒に活動できる場の確保。          ㉓グループごと自由にスペースを見つけ活動できるような場の設定。</p>	<p>終わりの会 読み聞かせを聞こう うれしかったことを話そう</p> <p>⑳小学校が楽しみになるように、幼児に向かって話をする。          ㉑幼児も全体の前で話そうとする。          ㉒ベアを促し、静かに読み聞かせを聞く。          ㉓お互いに引継のあいさつをする。</p> <p>&lt;小T&gt;終わりの会・読み聞かせ(学校の本)を行う。          &lt;幼T&gt;集団で活動ができるように個を援助する。          ㉔ベア同士で楽しかった事を確認し合うよう促す。          ㉕園庭で読み聞かせをする形態でベアで座る。</p>	<p>楽しかった事をステップアップさせよう</p> <p>㉖自分の成長について個々で振り返る。          ㉗小学校へのあこがれ次の交流活動に期待を持つ。          ㉘次の入学体験でベアが来るのを楽しみにする。          ㉙これからも仲良くしたいという思いを持つ。</p> <p>㉚今日の体験を思い出せるように、生活の中や、学ぶ過程での関連づけ、価値付けをする。          ㉛1年生を振り返り直し、指示をする。          ㉜園にもコピーなどとして、1年生の思いを指示する。</p>
<p>○手だて、5歳児※個への配慮</p> <p>手遊び歌練習          ・ミッキーマウスマーチ          ・小さな種か〜          ①1年生に保育園の絵地図を用意してやるようにする。</p> <p>※M,R          靴ずかしがり屋 照れて仲間に入れないかも知れない。</p> <p>※Y,N          右側の縄綱にひびく。固定ベルトは外れたが、まだ少しの事で折れやすい。引っ張ったり、押したりしないよう注意。</p>	<p>①交際で一人一人と挨拶を交わす健康状態を確認しながら迎える。          ②1年生が入るので、身の回りをすばやく片付け、スペースの確保をする。          ③支度が終わった子は、1年生が来るまで外遊びに誘う。(外で迎える)</p> <p>※K,R          失敗をおそれ始めから活動を避けてしまうこともある。また、失敗するとすぐに泣くので、そのような場面になったら声を掛ける。</p> <p>※N,A          靴ずかしい思いもあり、話しかけられた事に対して、うまく返事ができない。首を振るなどの返事はすると思うが...</p>	<p>班ごと並べる          ④安心して活動できる班を構成する。          ⑤子どもたちと一緒に楽しみながら手遊びをリードする。1年生も誘って手遊びの場所を確保するため、机を出す。</p> <p>⑥マラカスを作りたいか、外遊びに行きたいか幼児の思いを1年生がつかめたいと班は援助する。          ⑦御興や転がしゲームを安全に遊ぶように声を掛ける。          ⑧外遊びのため。コートボール・ボール砂遊びの道具準備</p> <p>※T,K          流れ口は付いてきてくれるが、一方的に話を延々としてしまう。難しい作業に対しては援助していく。</p>	<p>①1年生がリードできるように、幼児と一緒に説明を聞く。          楽しんでマラカス作りができるように、自由な雰囲気づくりをする。          ②マラカスの首に気付きた子どもに共感し、音に興味を持たせる。</p> <p>③1年生がリードできるように、幼児と一緒に説明を聞く。          楽しんでマラカス作りができるように、自由な雰囲気づくりをする。          ④マラカスの首に気付きた子どもに共感し、音に興味を持たせる。</p>	<p>手遊びの歌の掛け          ⑧読み聞かせのために、マラカスの片付けをさせる。          ⑨小学校に入ったら勉強する本の紹介をし、小学校に興味をもたせる。          ⑩子どもたちが寄り添って親近感をもてるように、真ん中スペースを作り、大型絵本で高い位置で読む。</p> <p>⑪子どもたちの最後の挨拶で、小学校を楽しんでもらえるよう言葉掛けをさせる。</p>
<p>○手だて、1年生※個への配慮</p> <p>紹介するものを決める          ①生活活で作ったもので、何を幼児にやらせてあげたいか明確にする場を設ける。          ②作り方を説明できるように全員見本を作っておく。</p> <p>※F,H          言葉の教習に敏感。言葉での説明は苦手。自分から説明ができないため教師がついて年長と作りながら説明を加える。</p> <p>※I,F          パキスタン国籍。日本語がまだ十分ではない。1年生2人のベアになるよう配慮する。</p>	<p>①交流活動のねらいを伝え、年上としてどんな態度を取ったらよいか具体的に伝えておく。          ②手を早く注意を確認し、安全に気を配り行動させる。</p> <p>※H,M          作業の手順などの説明がうまくできないことが予想される。ふれあい広場で使ったマラカス作りの説明書を使って、手順を説明しながら作るように寄り添い、様子を見る。</p> <p>※M,Y,K,H          自分の興味あることに夢中になってしまい、年長見と共に活動するというのを忘れがちである。声掛けをしながら年長見に楽しんでもらう事を常に意識させたい。</p>	<p>③始めの挨拶をする子を決めておく。          手遊び歌を一緒にやるよう声を掛ける。          ④できる子を紹介し、みんなであそぶようにまねてやることを進める。          ⑤担任以外の人の話も聞けるように立ち位置を配慮する。</p> <p>⑥班は生活活で、配慮が必要な班(7班)には、重点的につづ。          ⑦ベアの活動がスタートできない子には、手順の確認や班の1年生のやり方を見せる。          ⑧靴ずかしがり子、心ざしする子は、幼児の気持ちを察するように声を掛ける。</p> <p>⑨外に行くと言口は、幼児の思いを察するよう、声を掛ける。遊ぶものを決め、ベアで遊びを進める。          ⑩終わりの会の開始時刻を伝え、外遊びのできる時間を意識させる。          ⑪お別れ時・転がしゲームの活動場所を決める。担当の子どもに声を掛け、遊び方や注意を説明するように声を掛ける。</p>	<p>①1年生がリードできるように、幼児と一緒に説明を聞く。          楽しんでマラカス作りができるように、自由な雰囲気づくりをする。          ②マラカスの首に気付きた子どもに共感し、音に興味を持たせる。</p> <p>③1年生がリードできるように、幼児と一緒に説明を聞く。          楽しんでマラカス作りができるように、自由な雰囲気づくりをする。          ④マラカスの首に気付きた子どもに共感し、音に興味を持たせる。</p>	<p>手遊びの歌の掛け          ⑧読み聞かせのために、マラカスの片付けをさせる。          ⑨小学校に入ったら勉強する本の紹介をし、小学校に興味をもたせる。          ⑩子どもたちが寄り添って親近感をもてるように、真ん中スペースを作り、大型絵本で高い位置で読む。</p> <p>⑪子どもたちの最後の挨拶で、小学校を楽しんでもらえるよう言葉掛けをさせる。</p>
<p>重視した力</p> <p>①1年生の説明を分るまで聞こうとする。          ・自分のしたいことや思いを1年生に話そうとする。          ・約束やルールを守って、友だちや1年生と楽しむ。          ・始めの会や終わりの会など、やりたいことを押さえて話そうとする。</p>	<p>②幼・小どちらの教師の合図もすぐ気づき、正しい姿勢で話を聞く。          ・幼児に分かるように丁寧な説明をする。          ・自分から進んで幼児に話し掛ける、かかわろうとする。          ・幼児の思いをくみ、ルールを変更したり、遊び方を工夫したりする。          ・時間の見直しをもち、目的をもって活動に参加する。</p>			
<p>環境構成図</p>  <p>始めの会・終わりの会          5歳児と1年生が向かい合う。(ベアの机と向かい合うように)手遊び歌は5歳児が主導で行う。1年生は見ながら真似をする。</p>	 <p>自己紹介・マラカス作り          5歳児と1年生がまじり合うように座り方を工夫する。          製作時は脚を折ったまま低くして使う。          一つの机に7〜8人</p>	 <p>御神機、転がしゲームを道具の脇に置く。          ベアで遊ぶ班相談する。          5歳児はドッジボールに夢中なので、ドッジボールになりそうなら、コートをかき。(くわわらいボール用)</p>	 <p>読み聞かせ          中央に集まれるように、机を片付ける。          5歳児が前になるように集まる。          ベアと一緒に読み聞かせを聞く。</p>	

共同で活動する内容と、5歳児のねらい・1年生のねらい・教師のねらいについて明示した。そして、教師の留意点や役割分担、環境構成なども幼稚園教師と小学校教師が相談し、指導案に記入した。

指導案を作成した後、予想される子どもの表れや特別な支援を必要とする子どもについて、それぞれの担任が記入し、交流前に把握した。指導案の中に環境構成図を記載することにより、両担任は活動のイメージを持つことができた。

#### (イ) 子どもの表れ

1年生は、体験を積み重ねるごとに「相手に楽しんでもらいたい」という気持ちが出し、交流活動に向けた話合いの内容にも変化がみられた。一緒に活動することをイメージして、「作りやすい物・楽しめる物」を作ろうという視点から、一緒にマラカス作りをすることにした。

1年生は、1対1でかかわるため緊張していた。「マラカスを見ていいなって言うかな」「幼児が困ったらどうしよう」と期待と不安を持ち、5歳児と対面をした。

5歳児の自己紹介では、1年生は体を寄せて一生懸命聞いていた。自然に、一人ずつの名前を確認したり、「名前クイズ」を出し始めたり、1年生がリードして交流がスタートした。マラカス作りでは、5歳児が見本のマラカスを見ながら、描きたい絵を描いていた。活動が進むと、マラカスを「高く積もう」という遊びが始まった班もあった。

マラカス作りが一段落すると外遊びになった。幼児は、御神輿や転がしゲームを見て、素直に感心し「1年生ってすごい！やってみたい！」と人だかりができた。そのため、1年生は、遊び方やルール説明に熱が入り、自信につながった。一方では、自然発生的に1年生対5歳児のドッジボールが始まった。1年生は、弱めに投げたり、幼児のルールは優しくしたりするなど、思いやりを持って接する姿が見られた。砂場で遊ぶ班、遊具で鬼ごっこをするペア、園庭を御神輿で練り歩く子ども、それぞれが相談しながら遊びに浸っていた。

教師から、前もって集合時刻が示されていたので、子どもなりに見通しを持って活動をし、1年生と5歳児が声を掛け合い、遊びを終了することができた。

#### エ 交流に関する考察

連携学習会で「接続期カリキュラム」を提案したことにより、参加者は、接続を意識した連携をするために、教育内容を相互理解する必要を実感した。幼稚園教師からは、「身に付けたい力を意識して、意図的に経験させる活動や環境の構成を工夫したい」という意見が出て、子どもの発達や学びの連続性を考慮して自分の保育を振り返るよい機会となった。また、特別に支援を要する子どもや保護者に対して、小学校では、送られた情報を生かし具体策を講じていることが幼稚園側に伝わり、情報伝達の在り方も見直された。

教師同士の交流が進むと、子ども同士の交流も進めやすく、互いに望んでいることが見え、理想の連携にむけて具体的な活動が例示されるようになった。今回、子ども

同士の交流活動(2)に向け、幼稚園教師と小学校教師で交流活動の活動案を作成をした。教師の出番や手だてが事前に検討され、子どもの発達や特性にあった活動を計画することができた。実践の中では、子どもの表れを見取り、価値付けたり認めたりする場面が数多くみられた。この実践を通して、教師同士が共通理解をし、活動のための計画や具体的な準備をすること、日常的に情報を交換していくことは、互恵性のある交流活動を進めるために、大切であることが再認識された。

子ども同士の交流活動の経験を積み重ねることで、子どもは、互いを意識することができ、かかわり方が変容していく。1年生も5歳児もその子なりに、次への活動への見通しを持ち、活動内容や接し方について自主的にかかわることができた。子ども同士の交流活動は、継続していくことが大切であることが明らかになった。

## 5 研究のまとめ

### (1) 研究の成果

ア 幼稚園・小学校教師は、それぞれのカリキュラムの中で子どもの発達や成長を願い、指導にあたっている。しかし、幼稚園教師と小学校教師では、「身に付けたい力」の基準が違い、「教師同士の意識のずれ」が生じ、子どもにとって「段差」を感じることにつながっていることが明らかになった。

イ 子どもの実態をとらえることで、接続期に「重視したい力」を具体的な子どもの姿として明確にでき、幼稚園・小学校をつなぐことを意識した独自の接続期カリキュラムを作成することができた。

ウ 教師同士、子ども同士などいろいろな交流活動を計画し実践した。幼稚園・小学校教師が、接続期に「重視したい力」を共通理解し、「段差」や「接続」を考慮した、教育内容や方法について考える機会となった。

エ 幼稚園・小学校教師で話し合い、指導案を作成したことで、子どもの実態にあった交流活動が組まれた。活動の中では、教師が意図的に子どもの表れや変容を見取り、価値付けていくことができ、互恵性のある交流活動となることが分かった。

### (2) 今後の課題

ア 今回試作した実践校用の接続期カリキュラム・交流活動計画が小1プロブレムを解消するための一案となるか引き続き実践を行い、検証をしていく。

イ 幼稚園・小学校教師の「意識のずれ」がなくなるように、「身に付けたい力」を焦点化し、より実践的な学校独自の接続期カリキュラムを作成する。

ウ 幼稚園と小学校の交流を進めるコーディネート役を設け、地域での活動や保健センターなどと連携する組織の在り方について考える。

## 参考文献

- ・秋田喜代美著『知をそだてる保育』，ひかりのくに，2000年．
- ・有馬幼稚園・小学校・秋田喜代美著『幼小連携のカリキュラムづくりと実践事例』，小学館，2002年．
- ・朝倉淳編『生活科教育学』，協同出版，2002年．
- ・Benesse教育研究開発センター『VIEW21 [ 小学版 ] 2006.1』，2006年．
- ・ベネッセ次世代育成研究所『これからの幼児教育を考える2009春』，2009年．
- ・ベネッセ次世代育成研究所『BERD [ 16 ] 2009.3』，2009年．
- ・今井和子著『言葉と文字の教育』，小学館，2000年．
- ・小林宏巳著『幼小連携活動プラン』，明治図書，2009年．
- ・腰山豊著『幼年期教育の内容・方法・技術』，一藝社，2007年．
- ・無藤隆監修『幼稚園教育要領ハンドブック』，学習研究社，2008年．
- ・西久保禮造著『幼稚園の教育課程と指導計画』，ぎょうせい，2008年．
- ・お茶の水女子大学附属幼稚園・小学校『子どもの学びをつなぐ』，東洋館出版社，2006年．
- ・佐々木宏子・鳴門教育大学附属幼稚園『なめらかな幼小の連携教育』，チャイルド本社，2004年．
- ・滋賀大学教育学部附属幼稚園『学びをつなぐ』，明治図書，2004年．
- ・初等教育資料『平成20年度版幼稚園教育年鑑』，東洋館出版社，2008年．
- ・東京学芸大学附属竹早小学校『できることからはじめよう！』，東洋館出版社，2007年．
- ・筑波大学附属小学校『新しい発展学習の展開』，小学館，2005年．
- ・横井紘子著『幼小連携における「接続期」の創造と展開』，お茶の水女子大学子ども発達教育研究センター紀要，2007年．
- ・国立教育政策研究所・教育課程研究センター『幼児期から児童期への教育』，2005年．
- ・文部科学省・厚生労働省『保育所や幼稚園等と小学校における連携事例』，2009年．
- ・文部科学省『幼稚園教育要領』，2008年．
- ・文部科学省『幼稚園教育要領解説』，フレーベル館，2008年．
- ・文部科学省『小学校学習指導要領』，2008年．
- ・中央教育審議会『子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について（答申）』，2007年．
- ・静岡県・静岡県教育委員会『平成21年度 公私立幼稚園初任者研修資料』，2009年．
- ・岩手県立総合教育センター『幼小連携のカリキュラム作りに関する研究』，2006年．
- ・京都市総合教育センター『保・幼・小の連携を充実させるための具体的な取組の在り方』，2006年．
- ・日野市教育委員会『幼児期から小学校入門期へのなめらかな接続をめざして』，2007年．
- ・視察研修資料 南足柄市版「一貫カリキュラム」2009年．  
文部科学省研究開発学校 南足柄市『研究開発実施報告書』，2009年．

---

5歳児とのかかわりは2回目となり、前回の体験をもとに「相手に楽しんでもらいたい」という気持ちから次の交流の準備をする活動に変化がみられた。幼児と一緒に活動をするために、「つくりやすい物・楽しめる物」「みんな同じ物の方がけんかにならない」という話合いが持たれた結果、「マラカス」を作ることにした。

1年生は、一斉対一斉にはない緊張感がみられ、「幼児が困らないようにしたい」という思いで各自が責任を持ち、精一杯の対応をしていた。日頃、学校の中で、協調性、集中力に欠ける子どももその子なりに相手を気遣って活動していた。

5歳児は、1年生の話をしっかり聞き、見本のマラカスを見ながら、描きたい絵を進んで描いていた。中には、作ったマラカスや見本のマラカスを積み上げて違った遊びに発展したグループもあり、グループみんなで「高く積もう」という共通した目的が発生し、遊びが深まっていった。

外遊びでは、御神輿や、転がしゲームなど、どんなものにも素直に「1年生ってすごい！ やってみたい！」と声に出す幼児が多く、大人気で集まってくれるので、1年生は自信につながった。

ルールも確認しないのに、自然発生的に1年生対5歳児でドッジボールが始まった。自然に優しく投げたり、幼児のルールは優しくしたりしていた。砂場で遊ぶグループ、遊具で鬼ごっこをするペア、園庭を御神輿で練り歩く子たち、それぞれが遊びを相談しながら活動していた。

小学校学習指導要領解説の生活編指導計画作成上の配慮事項(3)には、「国語科、音楽科、図画工作科など他教科等との関連を図り、指導の効果を高めるようにすること。特に、第1学年入学当初においては、生活科を中心とした合科的な指導を行うなどの工夫をすること」とある。

**【資料15】子ども同士の交流活動(2) 実践例**

